

令和 2 年度  
広島県瀬戸内高等学校一般入学試験問題

国 語

(50 分)

..... 注 意 事 項 .....

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験 番号	
----------	--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

対話というのは、相手が目のまえにいて話すことです。対話のもっとも大きな特徴は、自分も話し、相手も話すという相互交渉によって成立しているところです。

接続詞という品詞は、基本的に話の流れを話し手が管理しているときに現れるものです。ですから、対話では、基本的には接続詞があまり使われません。接続詞の多用は、話の流れを話し手が独占しているような印象を与えるため、相互交渉を前提とする対話では相手にたいして失礼になることが多いからです。

しかし、一方的に話しつつづける相手にたいし、そろそろ自分の話したいことを話したいと思うこともあります。そのようなときは、話題を転換させるために、「ところで」のような転換の接続詞を使って、自分の話題を切りだします。

また、相手の一面的な評価にたいし、自分の考えを述べたくなることもあります。そのようなときは、「でも」などのような逆接の接続詞を使って相手の話をさえぎり、自分のソツ<sup>a</sup>チョコクな意見を表明することを予告します。

さらに、接続詞は、次の話をする推進力になる場合もあります。たとえば、「じゃあ」という接続詞は、「じゃあ、行ってくるね」「じゃあ、会議を始めます」「じゃあ、次いくぞ」「じゃあ、終わります」などと使います。「じゃあ」は行動が新たな段階に移ることを予告する接続詞ですが、これらの例ではいずれも、「じゃあ」をつけないと、次の話や行動に移れない感じがします。(中略)

このように、対話で使われる接続詞は、その場の空気を転換させ、話し手が主導権を握るために欠かせないものです。

しかし、接続詞を使ってその場の空気を変えることには、ある種のリスクを伴います。ここでは、それを四つに分けて示しましょう。

第一のリスクは、話している相手の発話権を奪うことで、気持ちよく話している人の気分を害するというものです。「とうか」「ていうか」「つうか」「てか」などは、「別の言い方をする」という「むしろ」系の接続詞で、発話権を交替させたいときによく使います。しかし、話しているがわの気持ちとしては、話している途中で聞き手に割って入られることはけっして気持ちのよいものではありません。とくに、相づちを期待しているタイミングで発話権を奪取されてしまったときは、話し手が機嫌<sup>きげん</sup>を損ねてしまうこともあるでしょう。

次の例の「てか」は相手に共感を示しているもので問題はありません。

「今日バイト先でさ、主任に大量のコピーを頼まれたかと思ったら、課長にすぐにお茶を入れろって言われてさ」  
「てか、自分でやれて感じたよね」

ところが、

「今日バイト先でさ、主任に大量のコピーを頼まれたかと思ったら、課長にすぐにお茶を入ろって言われてさ」

「てか、この部屋、暑くない？」

と言われたら、話し手は、私のグチを真剣に聞いてよ、という気持ちになるのではないのでしょうか。②「てか」が口癖<sup>b</sup>になっている人は、相手の話の腰を折って、相手を不愉快<sup>ふゆかい</sup>な気分にしていないか、気をつけてみる必要があります。

接続詞によって場の空気を変える第二のリスクは、話し手の示した言い方を訂正することで、話し手の気分を逆なでするというものです。先ほど示した「というか」「ていうか」「つうか」「てか」などの「むしろ」系の接続詞もそうですし、「つまり」「ようするに」「ようは」などの「つまり」系の接続詞もそうしておそれがあります。これらに共通して見られるのは、相手が口にした表現をそのまま受け入れず、それにわざわざ解釈を加えて言い換えるという操作を加えている点です。

話しているがわの立場からすると、こうした換言<sup>※1</sup>の接続詞によって、自分の発話が別の表現で言い換えられたということは、話し手自身の言葉では意図することが聞き手に充分には伝わらないと暗に指摘されたことを意味します。聞き手としては親切のつもりで端的な表現に言い換えてあげたのかもしれませんが、話し手にとってはプライドが傷つく、かなりショックなこともあるでしょう。さらに、聞き手によって言い換えられた内容が、書き手の意図したと違<sup>⑤</sup>う誤解や飛躍を含む場合もあり、その意味でもあまりコミュニケーション上よい結果を生みません。次例では、換言の接続詞を避け、Iにすれば語調が和らぎます。

「私がやればお金はかからないけど、業者に出すと最低五万はかかる作業だよ」

「ようは、お金がほしいってことね」

「違<sup>⑤</sup>うよ。そんなつもりでいったんじゃないよ」

接続詞によって場の空気を変える第三のリスクは、接続詞の使用が無用なIIを生むというものです。

大事なことについて自分の意見を表明することは、けっして悪いことではありません。ですが、さほど重要ではない話題についても話し手の発言に異を唱え、とにかく自分の意見を語りたがる人は相手を疲れさせてしまいます。

文化による程度差はありますが、基本的にはどのような文化圏<sup>c</sup>でも、対話の基本は、共感と同調です。「でも」や「けど」などの逆接の接続詞の使いすぎは、相手との対立をきわだたせることとなります。会議などの議論の場ではユズ<sup>d</sup>らずに食いさがる姿勢も必要ですが、

雑談のなかでは「おやつ」と思っても、「でも」や「けど」を飲みこんだほうが、相手との関係もよくなりますし、相手の話をさえぎらないことと思わぬ話へと展開していくこともあります。「でも」や「けど」はその展開をさえぎってしまうのです。

「この店のトンカツ、超おいしい。衣がサクツツとして、なかのお肉がジューシーで」

「でも、私、もっとおいしいトンカツ、食べたことがあるよ」

接続詞を使うことで場の空気を変える第四のリスクは、接続詞による自己正当化です。たとえば、対話で使われる「だから」は、自己を正当化する機能を帯びやすい接続詞です。

接続詞「だから」は、本来、自己の主張（「だから」のあとにくる内容）の正当性を示すために、その根拠となる事柄（「だから」のまえにくる内容）を選び、その根拠から導かれる帰結を、<sup>※2</sup>因果関係を下敷きにして示す働きがあります。それが、話し言葉で使われると、書き言葉で「だから」の因果関係を示す働きが薄れ、自己の主張の正当化ばかりが目立つことがあります。

次の例は、母の忠告に従わなかった子を責める場面での対話です。

「お母さん。帰る途中で雨に降られて、服も靴もびしょびしょになっちゃった」

「だから、朝、カサを持っていきなさいって、あれほど言ったでしょ」

また、次の例は、お皿を割った過失を責められて、抗弁している場面での対話です。

「ごめん、お皿割っちゃった」

「あー、これ、お母さんが大切にしてお皿よ。どうしてくれるの」

「だから、ごめんって謝ってるじゃん」

この二つの例は、一見異なるように見えますが、話し手が聞き手に一度伝えたことに再度注意を向けるように要求している点、聞き手の理解力不足を責めるようなニュアンス持っている点は共通しています。その背後にあるのは、自己正当化の姿勢です。

雨に降られたという対話では、子どもは「そんなこと、言われなくてもわかってるよ」とむくれたくなるでしょうし、お皿を割ったという対話では、母は「割ったあなたが悪いのに、開きなおらないですよ」と言いかえしたくなります。自己を正当化する「だから」は、他者の問題点を間接的に指摘することになるので、その場の空気を陰悪にします。

（石黒 圭著 『文章は接続詞で決まる』を一部改題）

※1 換言―ことばをかえて言うこと。言いかえること。

※2 帰結―いろいろの過程を経て最後に結論に達すること。また、その結論。

※3 因果関係―原因とそれによって生ずる結果との関係。

問一 } } a ~ d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 [ I ] にあてはまる最も適当な語句を次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 発表文      イ 質問文      ウ 感動文      エ 会話文

問三 [ II ] にあてはまる最も適当な語を文章中から二字で抜き出して書きなさい。

問四 理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。  
①「対話では、基本的には接続詞があまり使われません」とありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 話の流れが自然と次のものへと変わっていく場面以外での使用は、相手に対して失礼になるため。

イ 自分が話したいと思った時以外での使用は、原則として許されていないものであるため。

ウ 話の流れを管理する機能があり、相手に対して不快感を与えてしまうものになるため。

エ 使い方を間違えると相手を怒らせてしまい、対話が成り立たない可能性があるため。

問五 ②「てか」とありますが、この接続詞にはどのようなリスクがありますか。その説明として適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 相手が主張している内容に同調することによって、自分が意図しない方向に会話が進む。

イ 相手が相づちを打ってくれることを期待している状況で、話の主導権を取ってしまうようになる。

ウ 話し続けている相手の会話を無理矢理中断させることができ、相手に不快感を持たせてしまう。

エ 相手の話を聞いてきちんと相づちを打っていたにも関わらず、同調できていないと認識されてしまう。

問六 ③「話し手の示した言い方を訂正する」とありますが、これを聞き手にされると、話し手はどのようなことを意味していると考えられますか。その説明として最も適当なものを文章中から四十字で抜き出し、最初と最後の五字を書きなさい。

問七 ④「端的な」の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 分かりやすい      イ 優しい      ウ 複雑な      エ 和らげた

問八 — ⑤「その」は何を指しますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分の発話内容が聞き手によって解釈を加えて言い換えられてしまい、表現の仕方の悪さを指摘されること。

イ 相手に伝わるように述べた内容が周囲の人たちに誤解されてしまい、自分の思いを伝える努力をやめてしまうこと。

ウ 自分の意見が聞き手によって別の内容にすり替えられてしまい、他者に分かりやすくなっていること。

エ 発言した内容が聞き手によって別の表現に言い換えられてしまい、自分の思いとは別の意味を持つてしまうこと。

問九 — ⑥「だから」とありますが、筆者はこの接続詞を使用することによってどのような事態が起こると述べていますか。文章中から十二字で抜き出して書きなさい。

中から十二字で抜き出して書きなさい。

問十 この文章では「対話をする際に使用される接続詞」はどのようなものであると筆者は述べていますか。文章中から三十五字以内

で抜き出し、最初と最後の五字を書きなさい。

問十一 次の会話は、筆者が述べている「第一のリスク」～「第四のリスク」のどれにあてはまりますか。——部の接続詞の使い方を

ふまえて、解答欄に合わせて漢数字で書きなさい。

「私、ダイエット中で目標までに、あと5キロやせないといけないのよ。この夏、頑張つて目標をクリアしたいと思っている。

そういえば、最近、和風のスイーツにはまっているのよ。抹茶風味なんて、最高においしいのよね。」

「ダイエットって言うけど、結局は、お菓子がやめられないのね。」

「いや、ダイエットはちゃんとやっているのよ。」

【二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

～一九六〇年代、チェコ共和国のソビエト学校に通っていた私（マリ）は、ルーマニア人のアーニャと仲が良かった。三〇年後、私はイギリスに移住していたアーニャの元を訪れる。

「ねえ、マリ、あの頃は、私もあなたも、純情無垢むくな体制を信じ切っていたわね」

私まで巻き添えにしないで欲しいと思ったものの、ノスタルジー※1に浸ひたっているアーニャの叙情的※2気分を害さないように黙っていた。アー

ニヤは続けた。

「あの頃は、世の中のことすべて白か黒かで割り切っていた。今では、白か黒かなんてあり得ない。現実<sup>①</sup>は灰色をしているものだって学んだけれど」

「すなおに領け<sup>a</sup>なかった。そのような一般論に逃げ込んでアーニヤが自己を合理化していくのが嫌だった。アーニヤはソビエト学校でも愛国心の強さでは□に出る者いなかったでしょう。あれも、白黒の世界だったの？ 国籍を変える時は、辛くなかったの？」

「マリ、国境なんて二一世紀には無くなるのよ。私の中で、ルーマニアはもう一〇パーセントも占めていないの。自分は、九〇パーセント以上イギリス人だと思っている」

「さらりとアーニヤは言っていたのけた。シヨックのあまり、私は言葉を失った。ブカレストで出逢った、瓦礫<sup>がれき</sup>の中でゴミを漁<sup>あそ</sup>る親子を思いだした。虚ろな目をした人々の姿が寄せては返す波のように浮かんでくる。」

「本気でそんなこと言っているの？ ルーマニアの人々が幸福ならば、今のあなたの言葉を軽く聞き流すことができる。《 》、ルーマニアの人々が不幸のどん底にいるときに、そういう心境になれるあなたが理解できない。あなたが若い頃あの国で最高の教育を受けられて外国へ出ることができたのは、あの国の人々の作りあげた富や成果<sup>b</sup>を特権的に利用できたおかげでしょう。それ<sup>③</sup>に心が痛まないの？」

次々とそんな想いが頭の中を駆けめぐるのが、口ごもってしまつて、言葉にならない。

アーニヤは、顔を上気<sup>※3</sup>させて滔々<sup>たうたう</sup>とまくし立てる。

「そうよ、マリ。民族<sup>④</sup>とか言語なんて、下らないこと。人間の本质にとつては、大したものじゃないの。今わたしは英語でしゃべり、マリはロシア語でしゃべっているというのに、お互いほぼ一〇〇パーセント分り合っているでしょう」

「類的存在としての人類ってわけね」

「精一杯<sup>c</sup>ひにくを込めて言い返したつもりだが、アーニヤは、さらに高揚<sup>こうよう</sup>した口調で続けた。

「人類は、そのうち、たった一つの文明語でコミュニケーションするようになるはずよ」

「アーニヤ、私たちの会話が成立しているのは、お互い英語とロシア語を程度の差はあれ、身に付けているからよ。あなたがルーマニア語でしゃべり、私が日本語でしゃべったら、意志疎通<sup>そつう</sup>はできないはず。だいたい抽象的な人類の一員なんて、この世にひとりも存在しないのよ。誰もが、地球上の具体的な場所で、具体的な時間に、何らかの民族に属する親たちから生まれ、具体的な文化や気候条件のもとで、何らかの言語を母語として育つ。どの人にも、まるで大海の一滴の水のように、母なる文化と言語が息づいている。母国の歴史が背

後霊のように絡みついていて。それから完全に自由になることは不可能よ。そんな人、紙っぺらみたいにペラペラで面白くもない」

「……………」

⑥「好むと好まないとにかかわらず。どんなに拒もうと、抵抗しようど……」

「マリ、何が言いたいの!？」

「たとえば、ルーマニアの母国度は今や一〇パーセント以下と言うアーニヤの心根は、<sup>※4</sup>国土を長く持てなかったユダヤ民族の歴史と連なっている気がするし、あなたの言葉遣いの美意識は、<sup>※5</sup>チャウシエスクにソックリ」と喉元まで出かかった言葉をのみ込んだ。大きく息を吐き、またのみ込んでからたずねた。声がかすれていた。

「ルーマニアの人々の惨状に心が痛まないの?」

「それは、痛むに決まっているじゃないの。アフリカにもアジアにも南米にももつと酷いところはたくさんあるわ」

「でも、ルーマニアは、あなたが育った国でしょう」

「そういう狭い民族主義が、世界を不幸にするもとなのよ」

丸い栗色の瞳をさらに大きく見開いて真っ直ぐ私の目を見つめるアーニヤは、誠実そのものという風情だった。

(米原万里著『嘘つきアーニヤの真っ赤な真実』より)

※1 ノスタルジー | 過ぎ去った時間や時代、ふるさとを懐かしむ気持ち。

※2 叙情的 | 自分の感情を述べ表わす様子。

※3 滔々と | よどみなく話すさま。

※4 心根 | 心の奥底にある気持ち。

※5 チャウシエスク | ルーマニアの初代大統領。一九六〇年代から八〇年代にかけてルーマニア共産党政権の頂点に立つ独裁的権力者として君臨した。

問一 ~~~~~ a ~ d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア でも      イ またも      ウ もしも      エ たしかに

問三  にあてはまる語を漢字一字で書きなさい。

問四 — ①「現実には灰色をしている」とありますが、この言葉にはどのような意味が込められていますか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分が将来どうなるかは誰にもわからず、どうするべきかはつきり断言できる人はいないということ。

イ 人それぞれ価値観が異なるため、世の中で起こるあらゆる出来事は自分で判断するべきだということ。

ウ 現実の世界では、正義が必ず勝つというわけではなく、悪が勝つことがよくあるということ。

エ 実際の社会は、何が正しくて何が間違っているかはつきりと判断できるものではないということ。

問五 — ②「虚ろな目をした」とはどのような状態を言い換えた表現ですか。文章中から十字以内で抜き出して解答欄に合うように書きなさい。

問六 — ③「それ」は何を指しますか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自らがかつてルーマニアの富や財産を使って海外留学をしたために、現在のルーマニアでは貧しい生活を送っている人が増加していること。

イ 自らはかつてルーマニアの人々の財産を元に海外留学をしたのに、ルーマニアの人々が貧しい生活を送るようになったときに国籍を変えたこと。

ウ かつては誰にも負けないほどルーマニアを愛していたのに、今ではイギリスのほうが好きになってしまい、あっさり国籍を変えてしまったこと。

エ かつては誰にも負けないほどルーマニアを愛していたのに、今では二一世紀には国境なんてなくなると発言していること。

問七 — ④「民族とか言語なんて、下らないこと。」とアーニャは言っていますが、この考え方に対する「私」の考えを次の文のよう

うに説明した。次の文の空欄にあてはまる語句を文章中から十字以内で抜き出し、説明文を完成させなさい。

問八 — 人間は  から完全に自由になることは不可能である。

⑤「そんな人」を言い換えた語句を、文章中から九字で抜き出して書きなさい。

問九

——⑥「好むと好まないにかかわらず、どんなに拒もうと、抵抗しようとする……」の後に省略されていると考えられる言葉は何ですか。その言葉として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 人類は、そのうち一つの文明語でコミュニケーションするはず。

イ 自らの国の言語の歴史や文化から離れることはできない。

ウ そんな人間は紙つぺらみたいにペラペラで面白くもない。

エ あなたの言葉遣いの美意識は、チャウシェスクにソックリ。

問十

——⑦「狭い民族主義」とはどのような考え方ですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分の国や民衆に特別な思い入れをもち、他の国への思いと区別をつける考え方。

イ 自分の国や民衆が最も優れていると考え、他の国を見下し攻撃していかうとする考え方。

ウ 世界中のすべての国の人々の幸福を願うのではなく、自分の国の幸福だけを願う考え方。

エ 世界中のすべての民族に平等な価値があり、国という枠を超えて協力すべきだという考え方。

問十一

次のア～オは、①「私の考え方」と②「アーニヤの考え方」と③「どちらの考え方でもない」のどれに分けられますか。それぞれにあてはまるものをすべて選び、その記号を書きなさい。

ア 苦しい生活を強いられているルーマニア国民を助けるために、援助を行う必要がある。

イ 人間はどこで暮らしていようと自分の国の歴史や言語から逃れることはできない。

ウ 自分がどこの国で生まれて育ったのかということは重要なことではない。

エ 人間は言葉を通じない限り互いの考えを理解できないため、他言語を学ばなければならない。

オ 国が違ってても人間の根本は変わらないため、国籍や言語による違いは意味がない。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

むかし、男ありけり。人のむすめのかしづく、いかでこの男にもいはむと思ひけり。うちいでむことかたくやありけむ、もの病やみになりて、死ぬべき時に、「かくこそ思ひしか」といひけるを、親、聞きつけて、泣く泣くつげたりければ、まどひ来たりけれど、死にければ、つれづれとこもりをりけり。時は六月のつごもり、いと暑きころほひに、宵は遊よひびをりて、夜ふけて、やや涼しき風吹きけり。蛩ほたるたかく飛びあがる。この男、見ふせりて、(見ながら横になって)

ゆくほたる雲の上までいぬべくは、風吹くと雁かりにつげこせ(告げてくれ)

暮れがたき夏のひぐらしながむればそのこととなくものぞ悲しき(なかなか日が暮れない)

①「いかでこの男にもいはむ」の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア なんとかしてこの男に大物になってほしい

イ なんとかしてこの男に仕返しをしたい

ウ なんとかしてこの男にものを言わせたい

エ なんとかしてこの男に気持ちを伝えたい

問二

②「つれづれ」の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア どうしようもなくもの思いに沈んで

イ 一緒に生きていく人がいなくて

ウ 悩んでいるひまもなく忙しすぎて

エ 声をかけてくれる人が誰もいなくて

〔伊勢物語〕より

問三 — ③「こもりをりけり」の主語を文章中から抜き出して書きなさい。

問四 — ④「遊びをりて」とありますが、誰が何のために音楽を奏でたのですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 娘が練習の成果を発表するために音楽を奏でた。

イ 娘が親の魂をなぐさめるために音楽を奏でた。

ウ 男が娘の魂をなぐさめるために音楽を奏でた。

エ 男が宴会で一芸を自慢するために音楽を奏でた。

問五 I・IIの歌について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) Iの歌の□にあてはまる最も適当な語を次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 春           イ 夏           ウ 秋           エ 冬

(2) IIの歌の鑑賞文として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 親孝行も何もせぬまま先立たれてしまった両親のことを思いながら、もの思いにふけっている。

イ 自分のことを思いながら言い出せずに死んでしまった娘を思い、もの悲しくなっている。

ウ 夏の終わりで一日が長く感じられるとともに暑さで体力も奪われてしまい、疲労が倍増している。

エ 何もせずただもの思いにふけりながら夏を過ごした自分の態度に、後悔と悲しみを募らせている。